

第 3 回図書館基本計画策定委員会 議事要録

日 時 平成 30 年 5 月 24 日（木） 17 時 30 分開会 19 時 30 分閉会

場 所 吉祥寺図書館 まなびとつどいのへや

出席者 委員 9 名

船崎委員長、松山委員長職務代理、赤羽委員、大津委員、岡本委員、桂委員、金子
委員、北本委員、福島委員

事務局 12 名

鎌田図書館長、目澤武蔵野プレイス副館長、柏倉吉祥寺図書館長、
加藤課長補佐、前田課長補佐、盛田武蔵野プレイス課長補佐、森本課長補佐、
秋庭係長、佐々木主事、須藤主事
山名様、高橋様（文化科学研究所）

内 容 1 議事

(1) 前回議事録の確認について（資料 1）

(2) 計画で考慮すべき課題等について（資料 2 - 1、2 - 2）

2 報告事項

3 その他

配布資料 次第

第 2 回図書館基本計画策定委員会 議事要録（資料 1）

第 3 回策定委員会（資料 2 - 1）

図書館基本計画で考慮すべき論点（資料 2 - 2）

武蔵野市立図書館 3 館比較資料（追加資料）

市民アンケートからの抜粋（追加資料）

【事務局】

定刻となったので開会する。

本委員会は傍聴基準に基づき公開しているの、希望者があれば傍聴していただくことになる。よろしくお願ひしたい。本日については、現時点では傍聴希望者はいない。

次に資料を確認する。資料が不足している場合は申し出ていただきたい。

このあとは議事となるので、委員長に進行をお願いする。

【委員長】

承知した。

まずは事務局から、議事録について説明を。

★議事（１） 前回議事録の確認について

【図書館長】

資料1をお願いしたい。

事前に送付しているが、前回委員会の議論を取りまとめた。

今回で確認・承認をいただければ、終了後に公開したい。

【委員長】

本件について、何かあったら意見、質問を。

（意見なし）

次の議題に移る。事務局より説明を。

★議事（２） 計画で考慮すべき課題等について

【図書館長】

本日はワークショップ形式での議論をする予定となっている。事前に送付した資料2-1、2-2をご覧ください。

資料2-1はワークショップの進め方についてである。前回の委員会の検討を踏まえて、テーマを4つ挙げた。「①地域課題解決とレファレンスサービス」「②図書館が行うべきデジタルサービス」「③市民・市外のサービス基準、複本制度、図書館貸本屋議論」「④図書館行政・運営形態のあり方」である。

本日は、テーマ①～③について、意見を付箋に書いて説明しながら模造紙に貼るという作業までを行っていただきたい。次回までに、事務局の方でそれらの意見を俯瞰してグループ化した資料を作成するので、それを見ながらテーマ④（行政運営形態のあり方等）や図書館基本計画に反映する方向性、理念などについても議論いただければありがたい。

資料2-2は、議論の中で参考にさせていただきたい。

【委員長】

事務局の説明の通りの手順でおこなっていく。

まず、①のテーマについて、各自、3分を目処に、付箋に意見を書いていってほしい。

★1. 地域課題解決支援とレファレンスサービス

【委員長】

では、順番に一人ずつ、付箋を示しつつ意見を述べてほしい。

【委員】

「専門分野をもった司書の育成」。武蔵野市には司書が72人いるそうだが、それぞれの司書に専門分野があり、それが誰にもわかるようになっているとよい。例えば、郷土の歴史、玉川上水の資料など。

「自分史の作成、自費出版」。「古文書の電子化の促進」については、ふるさと歴史館とのすみ分けを整理する必要がある。

中央図書館のベストリーダー20年はすばらしいものであり非常に参考になるので、ぜひもう一度作ってほしい。

【委員】

そもそも武蔵野市の地域課題は何かと考えると、生涯学習がキーワードになるのではないかな。

レファレンスについては、「レファレンス」という言葉が認知されていないので、効果的なPR方法を考えるのがよいと思う。例えば、千代田区図書館が採用しているように「コンシェルジュ」など、受け入れやすい言葉に変える方法もあるのではないかな。

【委員】

レファレンスについては、武蔵野市では、ビジネス寄りよりも一般的な質問が多いと聞いた。地域特性もあるだろうし、企業は専門的な情報サービスを利用することも影響しているだろう。つまり、武蔵野市の図書館のレファレンスは一般市民が主な対象になるということを前提に対策を練る方がよい。

「知ってびっくり武蔵野市」というようなことを考えた。図書館として市民が興味あるテーマを事前に知っておくと、レファレンスについても準備しやすいと思う。アンケートなどを実施するのも一つの方法であろう。こういった情報は、図書展示のテーマを考える際にも役立つのではないかな。例えば、都内の駅への自転車乗入れは、第1位が三鷹駅、第2位が吉祥寺駅と聞いた。であれば市民にとって自転車は欠かせないものなので、それを展示のテーマにするなど。武蔵野市の特徴に沿った情報提供をすれば市民の役に立つのではないかな。

また、簡単で興味深いテーマを準備して「レファレンス体験イベント」を企画するのは

どうか。実際に体験してレポートを出してもらおう等することで、レファレンスに関する周知が図られていくと思う。

展示と一緒に関連する講演を行うのもよいのでは。情報の深堀りにつながると思う。例えば、起業した人の講演を聞くことで起業に必要な情報がわかり、図書館では関連の書籍紹介がなされているなど。

一方で、武蔵野自由大学で講演内容に興味をもった人が、さらに掘り下げられるように、講演と連携して、関連した本の展示などがあっても面白い。

生涯学習については武蔵野プレイスでも取り組んでいるが、今後、高齢者の増加に伴い、場所が必要となってくるであろう。乳幼児スペースに相對するものとして、高齢者向けスペースもできたら面白いのではないのか。

【委員】

市民が抱える課題は、ビジネス支援、医療情報、環境、子育て、教育など多岐にわたる。武蔵野市規模の自治体の公立図書館と考えたときに、まんべんなく資料を揃え、一般的課題には対応できるようにしていく必要がある。

一方で、専門的な情報については、どこに情報があり、どこで調べれば課題が解決できるのか、紹介していける機能を持つことが重要ではないかと思う。

【委員】

図書館がその解決に役割を担える武蔵野市の課題とはどういったものであろうか。

また、人々がその課題解決のために図書館を選択するかどうか。もっと手軽な解決手段があるなかで、図書館を選択してもらえよう工夫が必要なのではないか。

検索の簡便さ、分かりやすさ、来て良かった・ここで調べて良かった、このことだったら図書館に行けばいいよ、といったことを、戦略的に広げたり宣伝したりしていくことが必要なのではと思う。

【委員】

2点挙げた。ひとつは、地域の課題とは発見するべきものなので、それを業務として明確に位置づけるべきということ。

2点目は、オンラインデータベース・インターネット・有料の新聞記事等よりもハイレベルなデータベースの導入。10月オープンの札幌市図書・情報館で導入すると聞いているソーシャル分析データなども例として挙げたい。これは、ツイッターで、例えば「吉祥寺」という言葉と一緒に何が書かれているのか分析するもので、いま吉祥寺で注目されているものがわかる。マーケティング的には非常に重要なデータといえる。

ソーシャル系のデータセットは小さい企業が簡単に買える金額ではないので、武蔵野市の3館で利用できるということであれば、ビジネスに関わっている人が、あえて図書館を使う理由に十分になる。

【委員】

一般的な課題に取り組むのはもちろんだが、行政が設置している図書館なので、市の長期計画などで掲げている地域課題に沿った情報を地域の皆さんに伝えていくのが、図書館の役割なのではないだろうか。今の武蔵野市で貧困と格差が課題にあたるのか、疑問に感じる。

事業者・市民の皆さんに、いま社会はこうなっている、みんなが関心を持とうとしている課題はこれだ、といったことを伝えていくのも図書館の役割だと思う。

例えば、国連で掲げている「持続可能な開発目標（SDGs）」(*)などを図書館できちんと伝えていく。関連本を揃えるのはもちろんのことだが、「本」ということを外して、SDGsのゴールに向かって図書館は何ができるのかを考えるのはどうだろうか。せつかく10年間という長いスパンで考えるので、自分のテーマでもあるが本がなくても図書館ができること、その役割を考えることも大切であろう。また、武蔵野市はそれができる地域なのではないかとも思う。

*SDGs（エス・ディー・ジーズ）

Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標とは、2015年の国連持続可能な開発サミットで採択された、加盟193ヶ国による2030年までの達成目標。貧困・飢餓対策・健康・教育・ジェンダー・持続可能なエネルギー・産業イノベーション振興・経済格差対策・気候変動対策など17の大きな目標と169の具体ターゲットにより構築されている。我が国でも2016年に内閣にSDGs推進本部が立ち上げられ、達成への努力がなされている。

【委員】

図書館とSDGsは結びつかない印象があるかもしれないが、国際図書館連盟（IFLA）は、図書館はこの17の分野にも関わり目標達成に貢献していけるとアピールしている。武蔵野市は住民の意識が高いので、こういったことに取り組むのも地域らしさが出るのではないか。

「図書館って使える」という視点も大事ではないかと思っている。ウェブでは多くのことがわかるが、使いこなせていない人も意外に多い。例えば、文献を調べる際に、検索するのみで、ウェブ上のデータベース・図書館を活用するなど、そこから発展させて資料を探すことができない学生も見かける。

さらに、ウェブ上にない情報は、図書館で調べたり専門家に電話するなど、いろいろな方法がある。子ども向けに「一日司書体験」プログラムがあるが、これを大人向けにして、何らかのテーマについてウェブでも本でも何を使ってもいいから調べることで、調べる面白さ+むずかしさを体験する、「1日司書レファレンスサービス体験」などがあってもよいかもしれない。

加えて、「図書館ではレファレンスができる」と宣伝が行き届いても、きちんとした回答が得られないようでは、むしろ悪い評価が広まってしまう。そうならないように各自がス

キルアップしてくことも、図書館側としては大切と思う。

【委員長】

私が図書館にいた頃はインターネットがなかったため、多くのことは図書館で調べないと分からなかった。

今は、国会の議事録でも新聞でも、ウェブ上で調べればすぐに出てくる。非常に便利になったが、それだけでは出てこない情報もたくさんある。そのため、これからの司書は、インターネットと書籍の両方で調べられるハイブリッドな視点と技術を持つ必要があると思う。

【事務局】

同じテーマで図書館職員でもワークショップを実施したので、その結果もご紹介したい。

まずレファレンスの定義について、どこまで・何をレファレンスと捉えるか、レフェラルサービスまで行うのか、などの話題が出た。

次にレファレンスという言葉の浸透について、知名度が低い、馴染みがない言葉なので思い切って変えてみる、一目でわかるサインで示す、更には浸透させること自体難しいのではないか、などの意見があった。

地域課題については、そもそも地域課題とは「地域の課題」なのか「地域の住民が抱えている課題」なのか、やはり住民の方から相談を受けることが多いので後者の方がふさわしいのか？といった話題が出た。

【委員長】

様々な意見が出たが、ディスカッションは次回に行うとして、次のテーマに移りたい。各自、次のテーマについて、概ね3分を目安に付箋に意見を書いていただきたい。

★2. 図書館が行うべきデジタルサービスについて

【委員】

公共図書館はあくまでも紙にこだわって電子書籍に手を出さない方がよい。

次に、中央図書館の閉架書庫の本の可視化。例えば表紙がデータベース化されている、あるいは4KTVなどで書庫をきれいに見られる等。検索して本を探すだけでなく、閉架書庫の本も、開架書庫と同じようにビジュアルで探せるとよい。

次に、司書にもっと積極的にホームページに関与して情報提供してほしい。司書74名それぞれの専門性で、司書が目を見たプロの意見を、もっとオープンに言うといいと思う。

また、いろいろな大学や研究機関の資料の多くが電子化され、一般にも公開されている。しかし、欲しい情報になかなかヒットしない。そういった公のデータベースの利用方法や適切な検索の仕方などの支援などがあるとありがたい。また、データベースの中には図書館や研究者でないとアクセスできないものもあるので、そういったデータベースへのアクセス支援もあるといいと思う。

【委員】

電子書籍の導入は時期尚早と思う。ただ、例えば高齢者、障がいのある方などにとっては、画面をスクロールしたり、字を大きくしたりできる電子書籍は見やすいという面もある。図書館に来られない方にとっても便利。そういった点からは、導入検討もあるのかもしれない。

データベースは、武蔵野市の図書館で買うには高額で予算的に厳しいと思うので、近隣自治体の図書館と組んで購入するのはどうか。

図書館ホームページについては、私は慣れているので不便は感じないが、他の図書館に比べると魅力が若干少ないかもしれない。

図書館は、情報発信源であると同時に、中継点としての役割も大きいと思う。デジタルの情報、本など様々なものが集まり、また市民に還元されていく中継点になってほしい。

【委員】

「情報発信の中継点」というのは、いい言葉だと思う。

【委員】

電子書籍については皆さんと同じ。アンケート調査で「電子書籍に興味がある」と回答した人々は、ベストセラーなどを期待しているのではと思うが、それはなかなか電子書籍になりにくい。ベストセラー本に対応するようになってからでも良いのでは、という印象をもった。

図書館のOPACで「貸出ベスト」を見るとプルダウンでカテゴリが出てくるが、ジャンル横断的な本は探しにくい。例えば、アフリカでバッタを捕まえるという本が話題なので探そうと思ったが、カテゴリが分からず見つけられなかった。図書館の書籍分類に詳しくない人には、本が探しにくい構造になっていないか。

ホームページについては、トップ画面の情報がとても多いので、もう少しシンプルな方が良いと思う。

グループ学習室などの諸室は図書館に足を運ばないと予約できないとのことだが、インターネット予約ができれば便利なのではないだろうか。

また、面白い本が読みたいと思って図書館の本のレビューを見ても、司書の私的な感情が入らないように書かれていて判断がしづらい。そのため、市民が自分の読んだ本について、図書館のホームページで面白い、泣けるなど投票ができて、人気の項目ベスト5などが掲載されるようになるといいのではないか。こうしてデータが集まっていくことは、図書館の資産にもなるのではないかと思う。

【委員】

外部には有料も含めて様々なデータベースがあるが、個人でほしい情報にたどり着くの

はなかなか難しい。それらを仲介するようなサービスが図書館にあるとよいのではと思う。

また、図書館の仕事かどうかは分からないが、市内で行われるイベント、講演会、学校の運動会などの情報を一元的に管理し閲覧できるデータベースが必要と感じている。登録した団体がそれぞれに入力や書き換えができる機能を持たせればできるのではないかと思うのだが。

また、若い人はパソコンを使わない傾向があるので、スマートフォンで見やすいデータ形式が必要かと思う。

【委員】

見やすく使い勝手が良いホームページにしてほしい。この本は面白かったよ、おすすめなどのコミュニケーションが取れるような、SNS 的な交流や発信があるものになるとよいと思う。

図書館に来た時にデジタルサービスが使いやすい、IoT や AI などが入っていると魅力の一つになり、調べやすさの導入にもなると思う。

デジタルの活用として、古いもののデジタルアーカイブ化と、それを見られるサービスもよいのではと思う。

【委員】

政府でオープンデータ戦略の推進を進めている。これは、公共データを自由に使えるようにしようというもので、大阪市立図書館は、20 年間継続してきた地域資料のデジタル化とその公開などが評価され、昨年 Library of the Year 2017 の優秀賞に選ばれた。武蔵野市立図書館ではデジタル化しているデータはあまりないが、ふるさと歴史館など含めて考えるなどすれば、インターネット時代の図書館だからこそその存在意義を見出せるのではないか。

2020 年までにはスマートフォンの所持率が 100%になるとみられている。スマートフォンは一台ごとに電話番号があり個人認証がなされている。つまり本人確認ができてということなので、そこに図書館の利用者カード機能を入れることは、さして難しいことではない。それができれば、各自がスマホで本の貸出手続きをすることも、技術的には可能だろう。こういったことを追求していく方がよいのではないか。多少コストはかかるだろうが、例えば、図書館に導入されている BDS (ブックディテクションシステム。入り口にあるゲートで、書籍を無断で持ち出すと音で知らせる) の年間リース料は 100 万以上のはず。全国の図書館全体で見たら、図書館資料購入費より図書館システム利用料の方が多いというデータもある。本を買うことに反しているように思う。

次に、図書館で最先端のテクノロジーに触れられるようにする、という提案。本来、図書館とは、世の中の様々な新しいことについて学べる場所であったはず。そう考えると、公共図書館に行ったら最先端のテクノロジーに触れられるということにする方法もあると思う。例えば最近であれば、Google Home などは、CM で見かけても個人で買う人は少ないので、こういった新しい商品が図書館で触れられるなど。それは家電店の役割と思う人も

いるかもしれないが、半分ショーケースでも構わないので、図書館でとことん追求すると面白いと思う。

【委員】

市立図書館のホームページは見づらい。先ほど、もっとシンプルでよいのではという意見があったが、そのとおりと思う。リニューアルしたとのことだが、メリハリがなく、何を伝えたいのかよく分からない。また、パソコン用は充実した画面と思うが、スマホ用画面が簡単すぎる。下までスクロールするのでもよいから、カッコいいページで見たいと思う。

今の市立図書館ホームページは、コンテンツはあるのに出せてないと感じる。例えば、ふるさと歴史館では玉川上水、中島飛行機などいいキーワードが出ている。それを歴史館に任せるのではなく、図書館でも目立ったメニューを作るのも一つのやり方だと思う。また、「小学3年生の読書の動機づけ指導 50周年」は誇るべきことなのに、これも図書館ホームページでは、メニューにはあるがよく分からない。TOPに出してもいい情報と思うが。

図書館とホームページとの関係性として、図書館活動をホームページで紹介するというのではなく、ホームページから発信するという図書館のあり方もあっていい。館内で行っている活動と差があってもよい。ホームページだから、ウェブだから、という情報発信がもっと増えてよいと思う。

武蔵野市立図書館のホームページが目指すべきものは、ウェブでの検索でヒットすること。例えば、中島飛行機と検索しても図書館のサイトは出てこない、中島飛行機・図書館でも出てこない。出てくるようにするためには、リストだけでなく、図書館として一手間かけて、ちゃんとしたコンテンツやページを作ることが必要。すでに持っているコンテンツで可能と思うし、それができたら楽しいと思う。

SNSについては、無理にしなくてもいいのではないかと考えている。

【委員】

ホームページについては、皆さんのお話を聞いていて、自分は要求水準が低いのかなと思った。昔は施設案内だけがあるような簡易な図書館ホームページが多く、それを考えると独自のページを持っているだけでも頑張っていると思う。ホームページの見やすさを助けるためには、全体の階層が見られるサイトマップへのボタンが、ページ右上など、わかりやすい場所にあるとよいと思う。

ホームページ作成は、図書館で独自にしているのか、業者さんをお願いしているか。あとで聞かせてほしい。

ホームページに「武蔵野市に関する調べもの」という項目があるが、検索すると「この本をどうぞ」という書籍紹介で終わっている。続きは図書館に来て調べてほしいという思いであろうが、見た人からすると使えないという印象が残るのでは。

レファレンス事例を公開している図書館、例えば都立中央図書館や国立国会図書館などでは、レファレンスのプロセスとわかった情報まで書いてあり、図書館とはこういうこと

がわかる場なのか、面白いとわかってもらえる。そういったことを目指すべきではないか。

市立図書館には有料データベースがたくさんあり、来れば使えるのに知られていない。以前、武蔵野プレイスで有料データベースを知ってもらおうと説明会を企画したが、ある時は参加者が2人だけ、ある時は0人で中止になったと聞いた。せっかくデータベースがあるのに勿体ない。

また、市立図書館が持っている他にはない情報、例えば、武蔵野に関する新聞の記事の見出しをデータベース化したものなどを、積極的に出していくことも考えられる。

今は検索のために図書館のサイトに来る人も多い。武蔵野市立図書館のWEB OPACは、進化してきたものの、プロ仕様などころがあって、1文字でも違うと検索にひっかからない。利用者はサーチエンジンのあいまい検索に慣れているので、「この図書館には求める本はない」と思い込んでしまう。これは、メーカーが作っているシステムの問題と思うが、利用者や図書館のことがきちんとわかっている図書館側の人が要望を出していくことが必要ではと思う。

(他の委員の「SNSは無理にしなくていいのでは？」という意見に対して)

私は逆に、もう少し職員の顔が見えるような発信があってもいいのかなという気がしている。国立国会図書館などでも、オリジナルキャラクターに託して多様な情報を発信している。これも、様々なPR方法の一つの選択肢として考えていいのではないだろうか。

【委員】

SNSがなぜ不要と思うかについては、次のテーマのときに話したい。

【委員長】

職員ワークショップの結果も紹介してほしい。

【事務局】

このテーマに関する、職員ワークショップの結果をご紹介する。

委員会でのご意見とだいたい同じような話が出ていて、電子書籍については、人気の高いコンテンツは現時点ではメニューとして用意できないので、コンテンツの成長を待つ必要があるのではないかと意見があった。

SNSの活用は必要ではという意見が出された。SNS活用により、従来より情報が伝わりやすくなった事例についての紹介もあった。

情報発信については、ホームページで図書館として何を発信していくべきかわからない、そこから考えるのがこれからの課題という意見があった。

【委員長】

他に何かあるか。

【委員】

読書会などのように図書館の目的に合致したグループについては、グループ学習室を優先的に予約ができるようにしてほしい。ネットで予約できるようにするという制度とともに、考慮してほしい。

【委員】

先ほどの質問だが、ホームページは自前で作っているのか。

【事務局】

違う。メーカーの基本のものがあり、お知らせなど一部の日々書き換えられるものについては職員が作成している。

【委員】

ホームページはシステムとのセット販売であり、カスタマイズをするには別途、多大なお金がかかる。

【委員】

理解した。

【委員長】

次のテーマに移りたい。

各自、次のテーマについて、概ね3分を目安に付箋に意見を書いていただきたい。

★3. 市民・市外のサービス基準・複本

【委員】

複本制度については、30冊は多すぎでもっと減らすべきと思う。三鷹など周辺市ではもっと少ないのではないだろうか。

また、以前にラジオで出版社の人が、図書館にはなるべく文庫本を置かないでほしいと話していた。理由は、出版社の経営が厳しく、売れ筋の文庫本を図書館に置かれると売り上げ確保ができない、書店も多くつぶれているといった話であった。私としては需要があるので置いてもいいと思うが、量は控える方がよいかもしれない。

市民と市外のサービスの差について、現状でも市外の人にはリクエストができないなど差がある。これ以上の差はつけなくても、現状のままでよいのではと思う。

【委員】

市民と市外のサービス差については、同等というのが理想ではあろうが、やはり、現状程度の差であれば仕方ないのではないかと思う。

複本制度は1タイトルにつき30冊は多すぎる。アンケート調査結果を見ると、面白い本

を早く見たいという意見が多いので悩ましいが、あまりにも複本にお金をかけるのも本末転倒と思う。近隣市の図書館と相談して、1タイトルにつき何冊にしようと協力すればお金も浮くのではないだろうか。

関連して、新しい人気本を買うだけでなく、武蔵野らしい蔵書構成を目指していければよいと思う。

【委員】

市内と市外のサービスの差については、同じく、現状のままでいいと思う。

複本は、購入ルールを事前に定めて、皆が困らないように、ベストセラー何冊までなど決めてはどうか。武蔵野市の人には比較的裕福というデータもあり、何百人も待てないのなら自分で買って、読み終わったら売るなり寄附するなりすればよい。

特定の本への予約が集中するのであれば、近隣の図書館を横断して検索できるようにすれば、武蔵野市は500人待ちだから杉並区で予約を入れよう、といった形で分散できると思う。

先日、高校生が本を読まないという話があったが、小中学校、高校、大学等の図書館で動いていない本を活用できる仕組みがあればいいと思う。

また、ムーバスを活用し、本を読みたくても図書館に行きづらい方への配送サービスをするのはどうだろうか。ムーバスが本を運び、地域のコミュニティセンターや学校のスタッフや図書委員が受け取っておく。図書館までは来られないが、近くのコミセンまでなら行ける、という人もいると思うので。

【委員】

横断検索については、都立中央図書館のホームページで都内図書館の全館検索ができ、貸し出し状況もわかるようになっている。

【委員】

市民と市外で差がないのが理想ではあるが、立地や蔵書量で武蔵野市と近隣自治体間に差が生じており、特に武蔵野プレイスができてから、武蔵野市の図書館を利用する他市区民の方が多い状況が続いている。リニューアルした吉祥寺図書館も駅近で利便性が高いことから、市外利用者が多くなるだろう。市民サービス維持という観点から、この場で皆さんのご意見を伺えたらと思う。

複本について、私も多いだろうと考えている。すぐに読みたい人は買って読む、いつまでも待ってもいいという人は長期間待ってもらおうということではいいのではないだろうか。また、ベストセラー本は貸出期間を短縮するというのも一つの方法かと考える。

【委員】

予約した本の順番が来ると、一人あたり、受け取りの待機で1週間、貸出で2週間、合計3週間かかる。予約者が10名を超えている本は、待機や貸出期間を短くしてよいと思う。

【委員】

特定の本だけについて、そういった操作ができればよいのだが。

【委員】

市内と市外のサービスの差については、市外からの通っている学生さんなどへの配慮も必要かもしれない。また、広域連携を充実させていくことも望まれる。

市立図書館と学校図書館との連携が話題として出ているが、市内の子どもたちは同じ教科書・同じ単元で勉強しているので、一斉に同じ本を読みたがることがある。そういう用途で、たくさん必要となっている本もあるのではないかと思う。

【委員長】

修学旅行の時などに、学校と連携して調べ学習用の本をまとめて買って貸し出すなどしているのでは？

【事務局】

貸出ししている。日光への修学旅行に対応して日光の本をたくさん用意するなどしている。

【委員】

市立図書館にはたくさんやっけていただいているが、どの学校も同じ教科書・同じ単元で勉強しているので、調べ学習などで、同じ時期に複数の学校から同じような本をリクエストしているという実態がある。

【委員】

本を貸す重要性とは、日本国憲法で保障された知る権利を擁護するところにある。誰もが知りたいことを知ることができる、経済的な格差などに左右されずに自分の読みたい本が借りられる、これを維持していることは胸を張れることである。

一方で、そのことと複本を許すかは別問題。ハリーポッターを30冊買うのはやりすぎで公共性がない。それなら他の本を買うべき。ただ、そのように移行するには、市民が本に触れる機会、回転率、破損による買い替えの頻度などによる数値的な裏付けを背景に、市民に説明していくことが必要である。

市民以外へのサービスについては、考え直していい時期なのではないか。武蔵野プレイスは人が溢れている。武蔵野プレイスの立地を考えると、利用者の多くが三鷹市民ではないだろうか。税負担の原則からするとアンフェアなことであり、本来であれば、三鷹市の税金で三鷹市民が満足するものを整備すべきである。小金井市にも同じことが言える。西東京市ではそういった認識から図書館整備の議論が出てきている。

なぜ15万人程度の人口規模の武蔵野市が、地域の中心の役割を果たさなくてはいけないのか。もし自分が市民の立場なら納得がいかない。立川市などのような、周辺自治体より

も明らかに大きな都市であれば別だが、武蔵野市もそのうちに苦しくなってくるのではないか。

今の段階から、近隣の自治体には果たすべき役割を果たしてもらえよう、理解を促すことが必要と思う。それがなされない自治体に住んでいる方は、武蔵野市に転居してもらうか、武蔵野市にふるさと納税してもらえばよい。ふるさと納税しているなら市民と同じ利用でいい、などとしてもよいのではないか。

【委員】

SNSは不要という点についてご説明したい。図書館がSNSで情報発信し、図書館に魅力を感じて市外利用者が増えると、ますます市内の利用者が不便になる。市外利用者にはサービス差をつけるとすると、「SNSを見て来たのに、市外利用者には利用制限がある。なんだ、武蔵野市の図書館ダメじゃん？」と、逆にマイナスのイメージにつながるようになったらもったいない。SNSに関して私は消極的である。

それよりも、武蔵野市の図書館の課題は、むしろホームページにある。先ほど、あまり変更できないとは聞いたが、どういうホームページにしたいのか、図書館側からの意見がないとメーカーとも十分に対応できないと思う。

【委員】

複本問題については悩ましいところだが、結局は有限なリソースをどう使うかというバランスの問題なので、先ほどお話があった、一定の予約件数を超えたら貸出期間を短縮するというのが、一つの落としどころではないかと思う。大学によっては、教員がこの本は教科書扱いにして多くの学生に読んでもらいたいと指定すると貸出期間を短縮できる、といった体制にしているところもある。

武蔵野市は、今は3館体制だが、昔は地域にもっと小さな図書館やバスを改造した文庫、家庭で運営しているミニ図書館などもあった。地域文庫といったかと思うが、今も残っているのか？

【事務局】

なくなっちはないが、かなり少なくなっている。学校の学級文庫としてお母さんたちが運営している例はある。図書館が把握している以外にもあるかもしれないが、家庭文庫はかなり減っていると思う。

【委員】

3館まで来るのが難しい人に向けて、地域ごとに、図書館から3カ月単位くらいで団体貸出をするといった小さな拠点があるとよいと思う。昔に戻すというのではなく、新たな形で地域サービスを築いていくという考え方もあるのではないか。

また、武蔵野プレイスの児童書の書架は、貸出が多くていつもスカスカである。数年前、都内の公立図書館で、一冊の本が一年間に何回借りられているか（回転率）を見たら、圧

倒的に高かったのが武蔵野市と町田市であった。武蔵野市は、武蔵野プレイスの人気もあって市民ニーズにサービスが追いついていない部分があり、なんらかの対応が必要ではないかと思う。ただ、市民と市外のサービス差といっても、入り口で市民であることを示すIDが必要、といったことは行き過ぎであろう。どうしたものだろうか。

【委員長】

職員ワークショップの結果について説明を。

【事務局】

市民と市外のサービス差については、市民優先という話が出た。人気本の予約件数が多く、市民が借りられない現状をどうすればよいか。現在、近隣市との間で、市民が相互に施設等を利用しあえる「相互協定」を結んでいるが、これはずいぶん昔に結ばれたもので、果たして今の時代にそぐう制度なのか。ただし、サービスを変更する場合は近隣市にきちんと説明することが必要という意見があった。

また、図書館が外に出て行く、いわゆるアウトリーチに取り組んでは、という意見があった。

複本については、武蔵野市では基準をもって複本を購入している。数が多いという話があったが、保存という考え方に基づいて一定数は必要、という意見があった。

出版や地域書店との関係性を視野に入れた図書館の役割についての意見もあった。図書館が入札で大規模な書店から多くの書籍を購入すると、地域の書店の経営が厳しくなる要因ともなるのではないか、公共図書館として地域振興といった視点も求められるかもしれないといった意見であった。

【委員長】

本日は非常に多くの意見が出た。

議論はここまでとし、残った一つの議題については次回に検討する。また、事務局には、本日出た意見のとりまとめをお願いし、次回は、それに基づく議論も行いたい。

報告事項はあるか。

★（２）報告事項

【図書館長】

特にない。

【委員長】

引き続き、その他について。

★（３）その他

【事務局】

次回の第4回策定委員会は、6/26（火）17時半からを開催する。同日、16時半から図書館運営委員会を1時間ほど開催したい。また、次回は武蔵野プレイスでの開催を予定しているため、施設見学をしたい場合は、16時に集合してほしい。

【委員長】

全体を通して、質問、意見はあるか。

【委員】

いろいろな議論はあるが、先ほど話題に出た「図書館は知る権利を守る」という点は、非常に重要であり、譲れないものである。

【委員長】

その他、何かあるか。

（特になし）

以上で第3回図書館基本計画策定委員会を閉会する。